

サーキュラーアタッチメント 取扱説明書

もくじ

サーキュラーアタッチメントについて	02
付属品	02
サーキュラーアタッチメントを取り付ける	03
円形にぬう	03
位置あわせ定規の使い方	05
付属の押えをつかう	06



サーキュラーアタッチメントについて

サーキュラーアタッチメントを使うと、中基線を選んだ場合は半径* 30mm から 130mm までの円を、5mm 間隔で設定してぬうことができます。ミシン針の左側にアタッチメントの目盛りがくるように取り付けます。実用ぬいと飾りぬいを円形にぬうことができます。

* 半径：円の中心（ピボットピンを差し込む位置）から、その円周上のいずれかの点に至るまでの長さ。



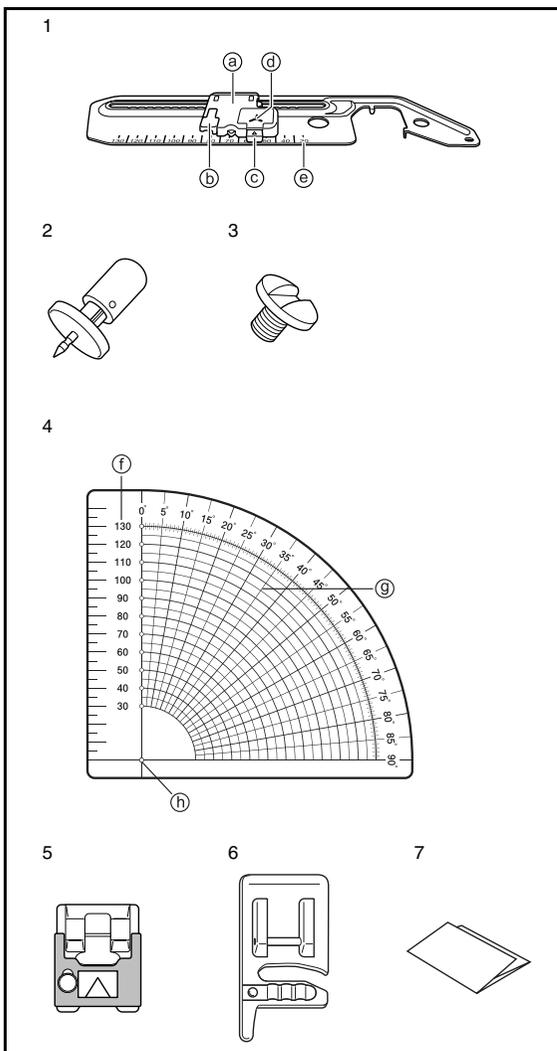
お願い

- 横送りをするぬい方（7mm を超える振り幅）ではぬうことができません。
- ご使用できる布地の厚さは、4mm までです。

⚠ 注意

- ピボットピンをご使用の際には、十分ご注意ください。不注意に取り扱くと、ケガの原因となります。
- お子供の玩具としてこのアタッチメントを使用しないようご注意ください。アタッチメントを使用しないときは、ピボットピンをインジケータにはめて、なくさないように保管してください。

付属品



No.	部品名	部品コード
1	サーキュラーアタッチメント a インジケータ b ハンドル c 解除ボタン d ピボットピン取り付け位置 e 目盛り	-
2	ピボットピン	XE6016-001
3	固定用ネジ < 2 個 > (1 個は予備)	XE6022-001
4	位置あわせ定規 f 半径 g 角度ライン (5 度単位) h 中心	XE6024-001
5	ブレード押しえ	F021N
6	コーディング押しえ 3 本	F013N
7	取扱説明書	XE7018-001



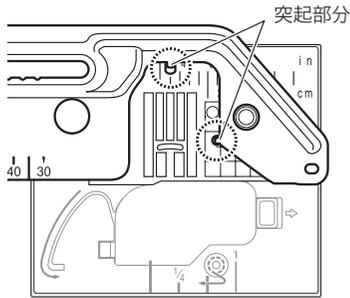
お願い

- 別売りのワイドテーブルと一緒にお使いになることをお勧めします。スムーズに布送りができます。
- アタッチメントをつけたままの状態、ワイドテーブルを持ち上げないでください。
- 縫製中、布をセットした状態で持ち上げると、ピボットピンが外れることがあります。ピンの頭を押さえながら布を持ち上げてください。
- 小さい円をぬう場合や、織りのあらい布地、または凹凸のある布地などを使用する場合、きれいにぬえないことがあります。
- 別売りのサイドカッター押しえなど、このアタッチメントと一緒に使えない押しえがあります。お手持ちの押しえを使うときは、アタッチメントと一緒に使えるかどうか確かめてください。
- ぬう速度は、アタッチメントをつけた状態で試しぬいをして、調整してください。
- 大きな布や衣服にぬう場合、布がスムーズにまわるように布を整えながらぬってください。模様の引きつりやゆがみを引き起こすおそれがあります。

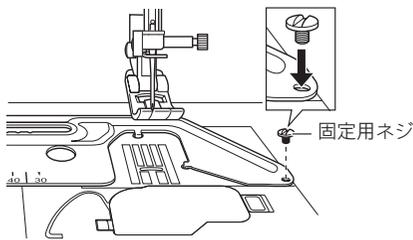
サーキュラーアタッチメントを取り付ける

1 図のように、ミシン針の左側にアタッチメントの目盛りがくるように取り付けます。

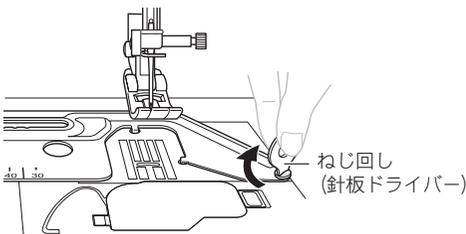
→ アタッチメント底面の2箇所の突起部分を、針板にある穴に差し込み、アタッチメントが水平になるように取り付けます。



2 針板の右側にあるネジ穴にアタッチメントの固定用ネジを差し込みます。



3 ミシンに付属しているねじ回し(針板ドライバー)で固定用ネジを確実にしめます。

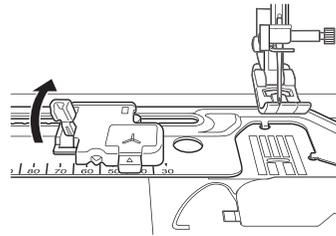


円形にぬう

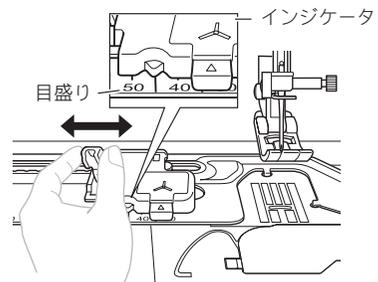
お願い

- アタッチメントにピボットピンを取り付ける前に、針に糸を通してください。糸通しレバーがピボットピンにあたり、ピンや糸通し装置を傷つけることがあります。

1 ハンドルを上にあげます。

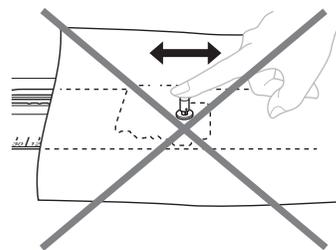


2 ぬいたい円の大きさに合わせて、インジケータの位置と目盛りを合わせて調整します。

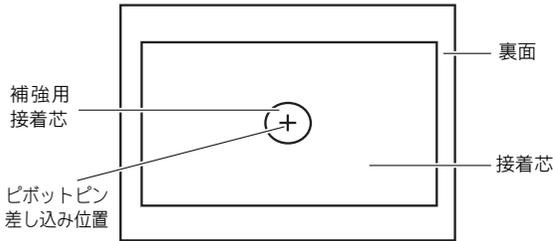


お願い

- ピボットピンの頭を押えながらインジケータを動かさないでください。ピボットピンが曲がったり折れたりする原因となります。



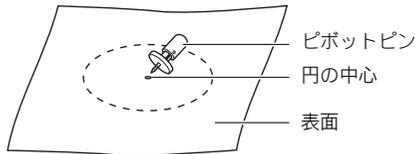
- 3 布地の裏に接着芯を貼ります。薄い布地の場合は、直径2cmに切った接着芯を円の中心に貼って補強してください。



お願い

- ぬうときは、布地の伸びや縮みをふせぐために、必ず接着芯を貼ってください。また、布地の種類によって、最適な接着芯を使用してください。

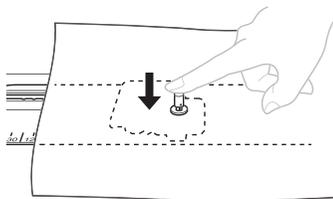
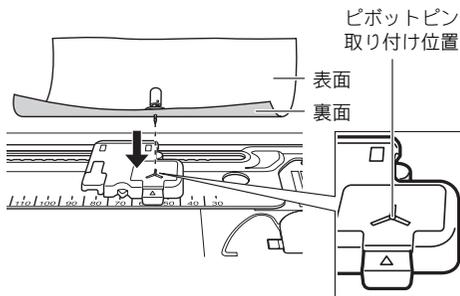
- 4 布地の表面の、円の中心になる箇所にピボットピンを差し込みます。



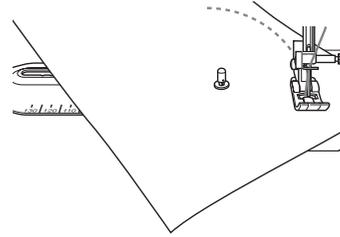
お願い

- ピボットピンは、キャップを外してからお使いください。
- 小さい円をぬうときは、まずピボットピンで布地をアタッチメントにセットしてから、インジケータを調節してください。

- 5 ピボットピンの頭の部分を押しながら、アタッチメントについているインジケータのみの箇所に、ピボットピンの針を差し込みます。



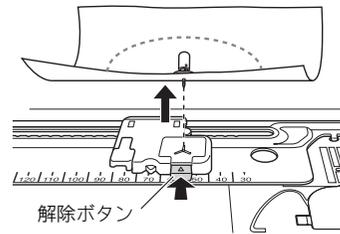
- 6 お好みのぬい方を選び、布を軽くガイドしながらぬいます。ぬいずれやぬいづまりの原因となりますので、無理に布を引っ張ったり押さえたりしないでください。



注意

- ミシンの周囲やワークスペースにものを置かないようにしてください。障害物によって円やぬい模様が乱れることがあります。

- 7 ぬい終わったら、必ず解除ボタンを押してピボットピンと布地をアタッチメントから取り外します。



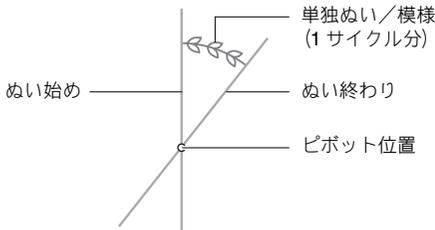
注意

- ピボットピンを布地に差し込んだまま放置しないでください。ケガや故障の原因となります。

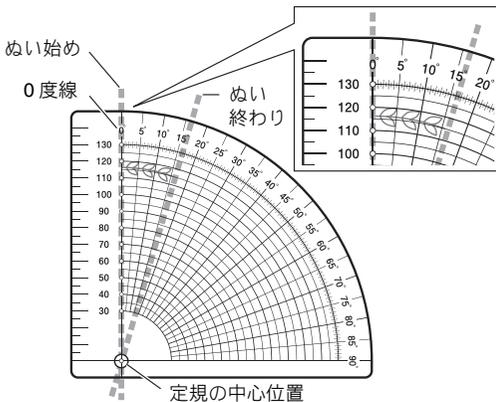
位置あわせ定規の使い方

実用ぬいと飾りぬいのぬい始めと終わりを合わせたいとき、単独ぬいを繰り返すときは、付属の位置あわせ定規を使います。

- 1 ぬい始める前に、ピボットピンを差しこむ位置（ピボット位置）に印をつけます。
- 2 お好みのぬい方と円の大きさを決めて、アタッチメントに布地をセットします。
- 3 単独ぬい、または模様を1サイクル分ぬいます。
- 4 布地をアタッチメントから取り外します。
- 5 ピボット位置から、ぬい始めとぬい終わりの位置まで、それぞれ鉛筆で線をひきます。



- 6 ぬった部分に定規を置き、定規の中心位置とピボット位置、定規の0度線とぬい始めの位置を合わせます。



- 7 ぬい終わりの位置を確かめ、1サイクル分の大体の角度を調べます。360度を1サイクル分の角度で割ると、何サイクルぬえばいいかがわかります。

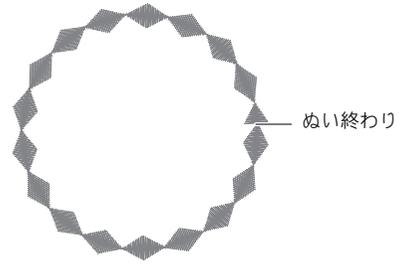
例：1サイクルが16度の場合

$$\rightarrow 360 \text{度} \div 16 \text{度} = 22.5 \text{サイクル}$$

お願い

- ぬい目の長さ、布地・糸・接着芯の種類により計算結果は変動します。模様の重なりや途切れのない、きれいな円形に仕上がるように、ぬい方に合わせてぬい目の長さを調整してください。
- 必ず試しぬいをしてください。ぬい目の長さや幅と向きを確かめて、作りたいものに適したぬい方かどうか確認してください。
- 模様が重なる場合、計算をやりなおしてみてください。

模様が途切れて合っていない例



付属の押えをつかう

付属の押えを使うと、より美しくぬうことができます。アイデア次第で、いろいろなぬい方が楽しめます。

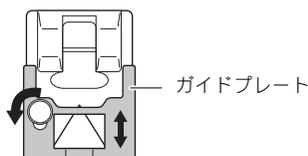
■ ブレーディング押え

幅が 5mm までのブレードに使うことができます。直線ぬい、ジグザグぬい、飾りぬいができます。

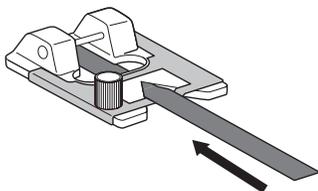
⚠ 注意

- 針が引っかかりやすい、細かく編まれたブレードには、この押えを使用しないでください。針の折れや故障、ケガの原因となります。

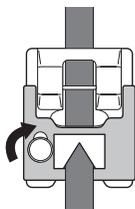
- 1 ガイドプレートのねじをゆるめて、ブレードの幅に合わせてプレートの位置を調節してください。



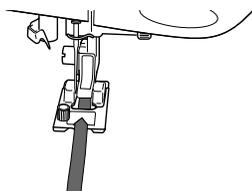
- 2 ミシンに押えを取り付ける前に、ブレードをガイドに通してください。



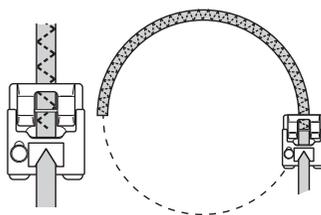
- 3 ねじをしめて、ブレードを押えの後ろ側に引き出します。



- 4 押えをミシンに取り付けます。



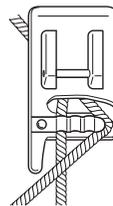
- 5 お好みのぬい方を選んだら、ブレードの向きに気をつけながら、ゆっくりと円形にぬいます。



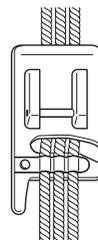
■ コーディング押え 3本

装飾用のコードを 1 本から 3 本までぬいつけることができます。コードの太さは 1.2mm 以下をお使いください。

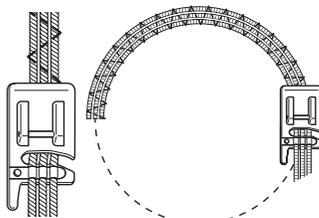
- 1 コードを、押えの右側から溝に通します。コードが 1 本の場合は、中央の溝に通します。



- 2 コードをガイドの下に通し、押えの後ろ側に引き出します。



- 3 ジグザグぬい、または飾りぬいを選んで、コードの向きに気をつけながら、ゆっくりと円形にぬいます。



お願い

- ジグザグぬい、または飾りぬいを行うときは、ブレードやコードの幅よりわずかに広くぬえるように、振り幅を調節してください。